

第2回 西原町地域公共交通会議 会議録

(開催要領)

- 1 日時 平成20年7月30日(水) 午後2時から午後4時まで
- 2 場所 西原町役場2階大会議室
- 3 出席委員 紺野博行、與那覇徹、金城淳、新垣長正、運天隆、野村安、喜屋武貞夫
(敬称略) (代理 比嘉茂雄) 真栄田康博、喜屋武勝、仲里義光(代理 當間正秀)、
喜屋武光廣、石川清勝、宮平良信、宮平正和
- 4 欠席委員 米須勇、中山靖章、真栄城朝雄、新垣良秀
- 5 事務局 小橋川聰企画政策課長、又吉宗孝政策係長、喜屋武尚主任主事、富原秀朝主任主事

(会次第)

- 1 会長あいさつ
- 2 委員の変更について
- 3 西原町乗合バス・タクシー実証実験運行計画(案)について

【配布資料】

資料1 西原町地域公共交通会議委員名簿

資料2 西原町乗合バス・タクシー実証実験運行計画(案)

宮平正和会長あいさつ

お忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。本町の公共交通空白地域となっている地域の方策として、今回の実証実験を通して、課題等検証できればと思っている。協議をよろしく願いしたい。

委員変更について

内閣府沖縄総合事務局運輸部企画室長の人事異動に伴い委員の変更あり。
村上強志委員(前任者)から紺野博行委員に変更。

議事

(宮平正和会長)

第1回会議で、今回の実証実験の運行事業者を選定するということだった。町内事業所5社に募集を呼びかけたところ、1社沖東交通から参入の意思表示があった。事務局より説明をお願いする。

(事務局)

案内通知といっしょにお送りした資料2「西原町乗合バス・タクシー実証実験運行計画(案)」に基づいて説明する。

運行態様は路線定期運行。

運行期間は9月から11月(最長90日)とする。ただし、利用者が少なく、運行することが困難な状況となった場合は、運行事業者の申し出を受けて、西原町公共交通会議会長と協議し、運行を終了することができる。

運行車両は、ジャンボタクシー(定員9名)1台と小型バス(定員27名)1台とする。

運行時間は、始発は6時30分に西原マリパーク発、終発は21時モノレール首里駅発とする。

運行本数は1日34便。

バス停は、別紙に示した仮バス停9箇所、既存バス停9箇所の計18箇所とする。

運行経路、運行ダイヤは別紙のとおり。

利用料金は、1乗車1人200円、小学生は100円、小学生未満は無料。

運行事業者は、先ほど会長からあったように、沖東交通グループの(株)大東交通とする。

(宮平正和会長)

事務局からの説明に対して何かあるか。

(宮平正和会長)

モノレールの乗り継ぎ時間との関係はどうか。

(事務局)

モノレールの運行間隔は、15分程度なのでその間で着けるような時間設定をしている。

(金城委員)

仮バス停はどのような形のものが。

(事務局)

まだ詳細には決まっていないが、移動式の構造で考えている。

(喜屋武光廣委員)

池田ハイツ入口付近は、朝晩混むが、バス停設置で交通渋滞を起こさないか。

(事務局)

交通渋滞を起こさないように、県道に出る手前で仮バス停を設置する予定である。

(石川委員)

使用する車両は、ワンステップで乗り降りできるのか。高齢者の乗り降りはどうか。

(野村委員)

小型バスは座席まで2段、ジャンボタクシーは1段段差がある。通常のバスやジャンボタクシーを利用している方であれば特に問題がないのではないか。

(當間委員)

団地内の小型バスの運行は大丈夫か。

(野村委員)

乗務員から大丈夫であると聞いている。

(當間委員)

団地内を小型バスが通るので、特に通勤通学時は、注意が必要。行政や自治会で駐車違反をさせない取り組みなど必要ではないか。

(宮平正和会長)

バス停付近に駐車しないよう行政側からも呼びかけていきたい。

(宮平良信委員)

今の運行経路では兼久地域は通勤通学の利用価値はない。兼久からマリパークまで遠すぎる。那覇市内の学校に通っている子どもたちにとっては、西原マリパークまで送迎してもらえれば首里駅まで行けるので助かると思う。ただし数名のみ。

(真栄田委員)

バス内のアナウンスはどうなっているのか。

(野村委員)

路線バスを使用するわけではないので、ブザーはついていない。お客さんから次のバス停で降りますと声かけしてもらおう以外ないのでは。

(當間委員)

運行の許可で問題とならないか。乗合タクシーだと声が近いので問題ないと思うが。

(與那覇委員)

この会議で方法を検討すればよい。

(紺野委員)

使用する観光バスはマイクがついていると思うので、次のバス停をアナウンスすればいいのではないか。降りる人は「次降ります」と言っていただく。でなければ、降りる人がいなくても各バス停に必ず停車する方法もあると思うが。

(石川委員)

乗る側にとっては、各バス停停車が安心できる。

(宮平正和会長)

次のバス停をコールするのは必要であろう。小型バスはマイクを利用し、乗合タクシーは声かけという方法で。各バス停停止は時間的にどうか。

(事務局)

各バス停停車だと時間的にきびしいと考える。

(宮平正和会長)

時刻表は、各バス停で停止した場合で設定したのか。

(事務局)

一番早く到着する時間で設定している。各バス停30秒停止で計った場合は、30分をオーバーする。バス停で徐行という形であれば時間内に行けると考えるが。

(當間委員)

徐行とかいう問題ではなく、声かけの場合だと工夫が必要では。降りるときは必ず停車してから立ち上がるということを徹底しないと事故につながる。特に降りないと思って素通りした後、急に降りますと立ち上がったりと急ブレーキを踏んで転倒させたら大変。設備投資をしなければしなやかに乗務員の教育等された方がいいと思う。ジャンボタクシーは問題ないと思う。

(石川委員)

関連して、定時運行となるのか。

(事務局)

もちろん定時を守る。時刻表にしても実証実験ということで、何時または何時半と覚えやすい時刻を設定している。時間の設定についても実験を通して、課題が上がってくるものと思われる。

(宮平正和会長)

実証実験をまずはやってみて、検証の結果、課題を整理していく。

(真栄田委員)

バス停以外では止まらないということで理解してよいか。例えばバス停 東崎工業団地前からバス停 第二小那覇まで距離があるが途中で乗せることはないのか。

(宮平正和会長)

バス停 からバス停 の間は民家がない。バス停以外で止まると実証実験の意味がなくなるのでバス停以外の乗車はない。

バス停 首里駅前での折り返しは、ジャンボタクシーであれば U ターン可能だと思うが、小型バスの場合どうなるのか。

(事務局)

首里駅手前交差点で降りてもらい左折して大角座 (うふかくじゃー) から戻ってくるルートを考えている。

(與那覇委員)

お客さんは首里駅に早く着きたいと思っているので、まずは首里駅前バス停で降りて、その後 U ターン方法を考えてはどうか。

(當間委員)

折り返しは、鳥堀交差点を直進し、すぐ左折して旧道を利用し右折で戻ってこれないか。

(事務局)

県道の右折帯に入る距離が短くきびしい。交通量もある。

(紺野委員)

首里駅前バス停の乗降を一箇所にして、次の停留所まで距離はあるが、大角座 (うふかくじゃー) から回ってくる方法もある。マリンパーク行きも同じところで乗ってもらう方法はどうか。

(一同)

いい考えだ。

(當問委員)

となると、完全に乗客の乗せ換えをしないといけない。

(野村委員)

ぜひ首里駅周辺のタクシー停車も指導していただきたい。

(宮平正和会長)

先ほど紺野委員が提案された方法だと時間短縮も見込めるので、それでいきたい。

(真栄田委員)

首里駅前前で降りずにそのまま下りも利用する人がいたらどうするのか。

(宮平正和会長)

やはり終点で一度降りてもらい、再度乗車してもらおう。

(紺野委員)

東京の事例だが、バス停1箇所でも降りる場所から数メートル移動して乗車してもらう方法もある。

(紺野委員)

ダイヤは土日も同じなのか。

(事務局)

同じダイヤである。

(紺野委員)

運行期間9月から11月(最長90日)とあるが、具体的な日付は事務局でお持ちなのか。例えば9月1日なのか。覚えやすい日を設定したほうがいいと思うが。

(事務局)

9月1日(月)開始、11月29日(土)までを考えている。

(當問委員)

9月1日は学校もスタートする区切りのいい日にちだと思うが

(與那覇委員)

9月1日スタートだと手続き上どうか。

(内閣府沖縄総合事務局陸上交通課)

バス停の詳細な位置等が決まって、道路管理者、警察と協議を行った上で、申請が提出されれば迅速に処理していきたいが、どこまで協議が行われているのか。

(事務局)

仮バス停の詳細な位置は考えている。仮バス停は、
以外
は町道に設置したいと考えている。今後は警察と使用許可について協議を行っていきたい。
は、臨港道路なので
港湾管理者と協議していきたい。

(當問委員)

本格運行となると、警察の保安基準のようなものがあったと思うが
(新垣長正委員)

道路幅員の関係で停車すると渋滞を引き起こさないかなど協議が必要になるが、今回はまだ詳細な位置を確認していない。バス停 ~ は新規バス停なので調べる必要がある。
(内閣府沖縄総合事務局陸上交通課)

乗合バス事業者が新路線を申請する場合、我々と公安管理者と協議を行っているが、今回の実証実験については、タクシー事業者が申請者となり、限定的な運行のため、そこまでの手続きは考えていない。警察はこの会議の委員にもなられているので、町からバス停の位置を照会し、事前に協議していただきたい。
(紺野委員)

9月1日スタートだと広報活動のスケジュールはどうなっているのか。間に合うのか。
(與那覇委員)

まずはバス停の位置を確定させ、8月中旬までには広報活動に入らないと9月1日スタートの周知が間に合わないのではないか。
(会長)

タイムスケジュールはどうなっているのか。
(事務局)

現段階は未作成である。
(紺野委員)

決まってないのであれば後で知りたい。しかし、日にちを確定させないと周知もできないのではないか。
(宮平正和会長)

9月1日実施に向けてひとつずつ手続きを進めていきたいと考える。
(與那覇委員)

次の会議はいつになるのか。
(事務局)

今回は実証実験終了後を考えている。今回の会議で実証実験実施を決めていただきたい。
(宮平正和会長)

実証実験を実施し、いろいろな課題を検証していきたい。9月1日実施に向けて事務局と運行事業者は全力投球していただきたい。9月1日実施で仕事を進めてください。
(當間委員)

審議委員としては、運行経路とバス停の位置をもう一度確認しておきたいが。バス停は実験途中でも変更可能とするのか。
(事務局)

運行経路、バス停の位置は案でお示ししたとおりで実施したい。
(宮平正和会長)

バス停の位置は、案のとおり実施し、移動が必要かどうかについては、実験後の課題として扱いたい。

(紺野委員)

運行期間で、利用者が少ない場合運行を終了するとあるがその目安は。

(宮平正和会長)

中間で状況報告するとか考えていないか。

(事務局)

中間で報告することは考えていない。事業者に赤字で走ってもらうわけにもいかない。前回会長のおっしゃった助成との関係もあるので、まずは1ヶ月続けたいと考えている。

助成においても、事業所からの協賛金やバイオディーゼル燃料の使用など活用していきたい。

(當間委員)

まず1ヶ月とおっしゃるが、個人的には3ヶ月は必要だと思うが。

(宮平正和会長)

できるだけ3ヶ月継続できるよう努力していただきたい。

(紺野委員)

本格運行に向けて、実績づくりが大事だと思う。実証実験自体できなくなれば本格運行など無理と言われるので、地域の足を確保するためにもぜひがんばっていただきたい。

(宮平正和会長)

財政的な支援も視野に入れて実証実験の実施、それから本格運行に向けて取り組みを行っていきたいと考える。

それでは、お示した内容で9月1日より実証実験を実施していきたいがそれによろしいか。

(一同)

はい

(宮平正和会長)

それでは、この内容で実証実験を実施していきたい。公共交通の不便地域の解消に向けて、また本格運行に結びつける実証実験としていきたい。

以上で会議を閉じる。